

若松区医師会 医師研修会に参加しました

先日、長年にわたり若松区内の病院やクリニックでご活躍されてきた医療職の方々への表彰式に続き、2 か月に 1 回開催されている若松区医師会の医師研修会に、当院の院長が参加されました。

今回の研修会のテーマは「膠原病とリウマチ性疾患」。産業医科大学若松病院の福與（ふくよ）先生（リウマチ・糖尿病内科 診療科長）によるご講演が行われました。専門性の高い内容でありながらも分かりやすく、非常に学びの多い講演だったとのことでした。

講演では、関節リウマチをはじめとする膠原病が決して珍しい病気ではないこと（北九州地域では、100 万人あたり 1 万人ほどの患者さんがいるそうです）や、診断の難しさについてお話がありました。関節痛といった共通する症状が多いため、発症の経過を丁寧に確認し、身体診察や適切な血液検査を組み合わせることで診断することの重要性が改めて示されました。

また、膠原病治療の分野では、近年、治療薬の進歩が目覚ましく、現在も国内外で活発な臨床研究が続いています。こうした現代医学の最新の知見を、地域の研修会で直接学ぶことができたことは、大変有意義であったとのことでした。

研修会終了後には、他院の先生方との情報交換の機会もあり、当院が取り組んでいる在宅医療に対して期待のお言葉をいただくなど、今後の地域医療連携につながる貴重な時間となりました。

当院が所在する若松区は小さな地域ではありますが、だからこそ医療機関同士が顔の見える関係を築くことができます。今後も院長をはじめ、研修会や勉強会へ積極的に参加し、地域の皆さまに安心して医療を受けていただける体制づくりに努めてまいります。

